

米沢興譲館高校SSH通信

SSH推進委員会 代表挨拶

SSHの学びを将来につなげよう

校長 吉田直史



SSH事業は、生徒の科学的能力を培い、将来、国際的に活躍する科学技術人材を育成することを目的に、文部科学省が平成14年から推進している事業です。本校は今年で第IV期4年目を迎えます。通算で17年目となります。東北地区で第IV期に採択されているのは本校を含めて2校のみ。本校では、独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業や課題研究などに積極的に取り組み、学校外のフィールドでの学びや、世界の仲間たちと切磋琢磨し、日頃の取り組みの成果を発表しあう機会も提供しています。SSHだからできる様々な「仕掛け」も用意しています。科学的なものの見方や考え方が身につく、学問への「アンテナ」が高くなることが期待されます。学問を通じた交流により、自分の視野を広げ、次の学びへのモチベーションが高まることも期待されます。全国の採択校の中でも先頭集団を走っていると自負しています。

これからの時代、ますます予測不能な社会になっていくと言われている中、文系・理系と言われる学問分野の境目がなくなってきました。例えば、環境問題、人工知能、人口減少社会などこれまでの文系・理系といった枠組みでは解決できない課題が顕在化しています。また、経済・法律・教育学といった文系といわれる領域においても、データサイエンスや科学的なアプローチなど、その力を発揮するために必要とされる領域が加速度的に広がっています。

真摯に学びに向き合ってみましょう。豊かで充実した人生を送るための「引き出し」を増やしていきましょう。「期待される」中にいるだけではもったいない。もたらされるものは人それぞれ。でも楽しくワクワクした学びは、未来を生き抜く大きな力になります。皆さんの成長を楽しみにしています。

スーパーサイエンスリサーチ (SSR) 徒弟制を実施して

4/16、4/23、4/30と3回にわたり、SSR徒弟制を実施しました。1回目は「問い立てワーク」を各コースごとに2・3年生合同で行い、2回目は3年生がテーマ設定の経緯、手法、考察など探究を振り返って上手くいったことや課題を2年生に伝えました。さらに、3回目は、科学研究型、プロジェクト型に分かれ、それぞれの研究手法などをより詳しく2年生に伝えたり、ワークショップを行いました。3年生はSSRを振り返りながら2年生に自らの取り組みを伝えることでキャリア意識の涵養を図り、2年生はSSRに対する具体的な方策を学ぶことで、今後の動機付けを図りました。

【2学年生徒感想】

- ・先輩方は研究に誇りを持って楽しそうに取り組んでいることがわかりました。自分が本当に興味のあることを研究テーマにすることが大切なんだなと思いました。
- ・先輩方が研究や発表の際にどんなことに苦労したかが良く分かったので自分達の研究に活かしたい。また最初の問い立てを追求することが大事だと思った。
- ・いよいよ自分たちが研究を担っていくのだという自覚が強まった。先輩方の成功談・失敗談をよく参考にしながら、より質の高いテーマ・研究方法を設定していきたいと感じた。
- ・テーマの決め方、研究の順序、先行研究や論文の調べ方など研究にまつわるお話から簡潔に日程計画の立て方やポスター発表のアドバイスまでいただいてとても有意義でした。SSR活動への不安が少しとれてこれからの活力になってよかったです。



226 山形県立米沢興譲館高等学校SSH事務局

URL <http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/index.php> Email yonekojo@pref-yamagata.ed.jp
〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101番地 TEL 0238-38-4741 (代表)

